



「環境要覧'92」

(財) 地球・人間環境フォーラム編
古今書院, A4 版, 577頁, 9,600円

1992年版の環境要覧が発行された。本書は昨年、(財)地球・人間環境フォーラムが財団設立の記念事業として試作した「GEF 環境データブック'91」を受け、市販方式で製作された環境情報データベースである。その編集には環境庁が全面的に協力しており、実際の製作と出版は、民間シンクタンクの富士総合研究所が担当している。

発行の目的は、編集方針にも述べられているように、「国内外の環境及びそれに関連する主要なデータを一冊の本としてとりまとめ、環境保全に関する各種の検討や研究の基礎資料として活用されること」、にある。A4 版、全体で577頁、そのほとんどが図表で埋まっているから、それが含む情報量は膨大なものである。以下にその内容を紹介する。

1. 地球環境総論

1.1 地球環境問題関連年表

1.2 地球環境の現状

2. 環境データ

2.1 国内データ

(1) 環境負荷インデクス

エネルギー・資源、廃棄物関連、負荷関連

(2) 環境リスクインデクス

大気環境、水質環境、地盤沈下、騒音

(3) 環境対策インデクス

公害対策、環境政策 (予算、制度、組織)

(4) 自然資源インデクス

広域自然環境、自然公園・都市緑地

2.2 国際データ

内容の分類は2.1とほぼ同じ。

3. 世論調査データにみる環境問題意識と実態

4. 地球環境キーワード

5. 基礎データ (付録資料)

5.1 国内データ

(1) 環境条件インデクス

人口、経済・財政、産業

(2) アメニティインデクス

生活環境

(3) 医療・安全インデクス

国民健康関連、安全

5.2 国際データ

内容の分類は5.1とほぼ同じ。

地球環境に関連する問題、例えば熱帯林の減少・砂

漠化・温暖化などは、個別の問題として重要であるが、それらが互いに係わりあい、さらには、社会科学的な側面をも持つ複合的な問題でもある。また地球規模の問題でありながら、対策を考えるにあたっては、地域規模のレベルでの問題の把握も重要な役割を果たしている。このように複雑な環境問題の研究や対策の推進には、問題に関する可能な限り正確な事実の把握がその出発点となる。データを時系列的に観察し、あるいは異なった地点間の状況を比較することなど、多角的に検討することが必要である。このためには内外の環境に関する統計データの包括的な整備が必要不可欠である。

この要覧では約200項目にわたる日本・世界の環境データおよび人間活動に関わる基礎データが収録されている。都道府県・国単位で広範囲かつ体系的に集大成された環境情報について、表示は古いものは5年おき、1985年以降は全データが記載されている。統計表データの多くは国立環境研究所所有のデータベース「SAPIENCE」を活用して得られたものである。環境データについては4つの指標群に体系的に分類整理されている。

①環境負荷インデクス：エネルギーをはじめとする資源利用、廃棄物排出状況など、環境に対して圧力や影響を与える人間活動に関わるデータ

②環境リスクインデクス：大気・水質環境、地盤沈下、騒音等の環境測定値など、顕在化した環境の状況を示すデータ

③環境対策インデクス：国や自治体、企業による環境保全施策、公害防止投資などの環境対策に関わるデータ

④自然資源インデクス：自然公園、都市緑地や森林面積など広域自然環境に関わるデータ

それぞれの項目について解説が付加されており、またデータの経年変化や地域的な分布がわかるように表が図化されている。項目毎に関連するトピックスも付加され、一層資料の利用価値を高めている。この種の統計資料で重要な点は、その出典が明確に記述されているかどうかであるが、この点についても出典、あるいは準拠資料が明記されているのがありがたい。さらに国内で実施された環境問題の意識に関わる22件の世論調査結果を総括的に再分析して得られた結果、200項目に近い地球環境のキーワード集など、有益な関連事項も掲載されている。

価格も比較的低廉であるところから、環境問題の研究や行政に携わる者にとっては、座右に1冊備えて利用する価値のあるものである。

(気象研究所 藤谷徳之助)